

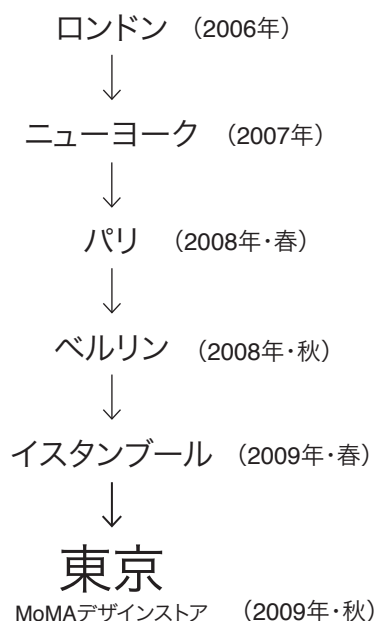
Detour

THE MOLESKINE NOTEBOOK EXPERIENCE

世界的な作家が参加している世界巡回展「Detour」

展覧会名：「Detour」(デトウア)
会 期：2009年10月16日(金)～11月4日(水)
入 場：無料
内 容：国際的に活躍する様々な分野の作家たちが自由に使用したモレスキンノートブックを展示。来場者は、直接ノートブックに見て触れることができる。

会 場：MoMA Design Store
渋谷区神宮前5-10-1 Gyreビル3F
営業時間 11:00 - 20:00
定休日 なし
Tel 03-5468-5801



主催：Moleskine srl
lettera27
協力：MoMA Design Store
Qahwa
キュレーター：Raffaella Guidobono
会場デザイン：Zetalab

プレス問い合わせ

デイリープレス
150-0001 東京都渋谷区神宮前 2-19-6
フタミビル 503
03-5771-7277 p 03-5771-7278 f
竹形 尚子 naotakegata@dailypress.org
ベンジャミン benjaminbudde@dailypress.org



NYC展(アートディレクターズクラブ 2007年)



NYC展(2007年)



ベルリン展("ものの博物館" 2008年)



パリ展(ポンピドゥーセンター 2008年)

世界巡回展Detourが日本に上陸!

[Detour]は、200年以上の歴史をもつ伝説的ノートブック、モレスキンと、ミラノを拠点に世界の貧困地域での教育普及活動を行っている非営利団体lettera27(レッテラ・ヴェンティセッテ)による、文化と創造の発展を目的とした世界巡回展である。

本展は、国際的に活躍しているアーティスト、建築家、映画監督、グラフィックデザイナー、イラストレーター、文筆家などが参加し、モレスキンのノートを使って、自由に創作、表現したノートを作品として出品するグループ展となっている。会場では、ノートを中心に、写真やビデオ、参加作家のプロフィールが紹介されている。また、モレスキンはlettera27の支援の一環として本展を開催している。

2006年にスタートしたこのプロジェクトは、これまでにロンドン、ニューヨーク、パリ、ベルリン、イスタンブールを巡回した。[Detour]は毎回、世界を舞台に人々を魅了している様々な分野の作家、とりわけ開催地に関連が深い作家を招聘している。[Detour]展の会期中に展示されたノートは、モレスキンwebサイトで永続的に公開される。東京では、10月16日から表参道MoMAデザインストアで開催予定である。

その長い歴史の中で、モレスキンのノートブックは、優れた想像力をもった多くの作家に愛されてきた。最近ではモレスキンのユーザー間で使用したノートブックの画像を交換しているというようなことも起きている。そのような背景から、有名な作家が思い思いに使用したノートブックを文化的なアーカイブとして保管し、展示会の形を通じて来場者に「交換する」(つまり、発表する)考えが生まれた。

この伝説的ノートブックをこよなく愛した紀行作家ブルース・チャトウィン、そして、モレスキンから発表している好評のシティノートブックシリーズなど、モレスキンにはいつも"旅"というキーワードが切り離せない。この影響もあって、この展示会が自然と世界を巡回することになった。

2007年にMoMAニューヨークでmyDetour展を開催して以来、モレスキンとMoMAは継続的に協力関係を築いてきた。東京のMoMAデザインストアは世界の文化的なアイコンという位置づけをもち、Detourというエキシビションがもつ目的と強く共鳴している。

[Detour]—その意義と背景

[Detour]とは、見慣れたルートから逸れる「迂回」することを意味する言葉である。展示会も「逸脱し、常識を乗り越えていくこと」とテーマにしている。そこで、通常のように場所に固定される静的な展示会形式にこだわることなく、ロンドン、ニューヨーク、パリ、ベルリン、それからイスタンブールへと、転々と場所を変え、移動し続けるアクティブな展示会にした。そして今回、新たな巡回展の開催地として決まったのが、東京である。[Detour]とは、いわば長い旅路で偶然出会ったパッセージ(通路)のようなものだ。時代の新しい局面と長い年月を経て築かれた文化とが遭遇し、互いに刺激し合う。作品は手で触れ、感じるができるよう展示している。それによって世界の創造力を、肌を通して分かち合うことができると考えている。[Detour]展が世界について語られる物語の序章となり、世界中の人々が行き交うパッセージへ通じるものとなることを願っている。

参加作家の考えに直接触れる!

展示されたノートに直に触れ、思い思いにめくることができます。世界的な作家の考えやクリエイティブプロセスなどをより身近に感じていただけます。

以前のDetour展では、クリスチャン・ラクロワ、ルー・リード、スパイク・ジョーンズ、テレンス・コンラン、アレッサンドロ・メンディーニ、マッシミリアーノ・フクサス、シガー・ロスなど、すばらしい作家に参加していただきました。

東京展では、下記の作家が使用したノートを展示する予定。

これまでのDetour展で発表されたノートブック約20冊を展示。

東京展にあわせて日本からも数多くの作家が参加!

- アントニオ・マラス (ファッション・デザイナー)
- イヴ・ベアール (デザイナー)
- ヴァレリオ・ベルティ (アーティスト)
- エミオ・グレゴ & ピーター・ショルテン (振付師)
- カリム・サイド (ミュージシャン)
- カリム・ラシッド (プロダクトデザイナー)
- キューン・マルヴェッツィ (建築家)
- ジュゼッペ・アマート (デザイナー、アーティスト)
- ジュリア・ローマン (デザイナー)
- ジョヴァンニ・ソッリマ (作曲家、チェリスト)
- ジョルジオ・ヴィニア (アーティスト、デザイナー)
- スティーブン・グアルナッチア (イラストレーター)
- ハンス・ウルリッヒ・オプリスト (キュレーター、ライター)
- マッシモ・ヴィターリ (写真家)
- マルティ・ギゼ (デザイナー)
- 三宅 信太郎 (アーティスト)
- ロス・ラブグローブ (デザイナー)
- ロン・アラッド (デザイナー)
- ヨープ・ファンリースハウト (アーティスト、デザイナー)

- 青木 淳 (建築家)
- 新井 惇一 (テキスタイル・クリエイター)
- 伊藤 志信 (デザイナー、建築家)
- 伊東 豊雄 (建築家)
- 押井 守 (映画監督)
- 川崎 和男 (大阪大学 大学院教授、デザイン・ディレクター)
- 河瀬 直美 (映画監督)
- 喜多 俊之 (プロダクト・デザイナー)
- 北井 真一郎 (デザイン チーム DEVILROBOTS)
- グエナエル・ニコラ (デザイナー)
- 隈 研吾 (建築家)
- 佐藤 オオキ (デザイナー)
- 妹島 和世 (建築家)
- 西沢 立衛 (建築家)
- ジュリオ・イアケッティ (デザイナー)
- 須藤 玲子 (NUNOデザイナー、東京造形大学教授)
- 服部 一成 (アート・ディレクター)
- 原 研哉 (グラフィック・デザイナー)
- 松井 えり菜 (アーティスト)
- 森 俊子 (建築家)
- モレノ・フェラーリ (ファッション/テキスタイル・デザイナー)
- ルイジ・ガッロ (ライター) &
ロベルト・カラッチョーロ (アーティスト)
- 横尾 忠則 (美術家)
- 吉本 直貴 (造形作家)



左から順に ① カリム・ラシッド、ジュゼッペ・アマート、ジュリア・ローマン、ロス・ラブグローブ ② ロン・アラッド、ハンス・ウルリッヒ・オプリスト、アントニオ・マラス、三宅 信太郎



myDetour

THE MOLESKINE NOTEBOOK EXPERIENCE

創作を愛する人なら誰でも参加できる「myDetour」展

展覧会名：「myDetour」(マイ・デトウア)

会期：2009年10月16日(金)～11月4日(水)

入場：無料

内容：一般の方の参加型エキシビション。自由に自分を表現したモレスキンノートブックで応募。都市5カ所の会場で受付。次回Detour展を開催する際に、世界的に活躍する作家たちと肩を並べて出展するチャンスが得られる。

会場：青山ブックセンター (本店)
渋谷区神宮前5-53-67
コスモス青山ガーデンフロア B2F
営業時間 10:00 - 22:00
定休日 なし
Tel 03-5485-5511

NADiff a/p/a/r/t ナディッフ・アパート
渋谷区恵比寿1-18-4 1F
営業時間 12:00 - 20:00
定休日 なし
Tel 03-3446-4977

スパイラルレコーズ
東京都港区南青山5-6-23 スパイラル1F
営業時間 11:00 - 20:00
定休日 なし
Tel 03-3498-1224

TSUTAYA 三軒茶屋店
世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー2F
営業時間 10:00am-4:00am
定休日 なし
Tel 03-5431-7788

CIBONE 青山店
港区北青山2-14-6 青山ベルコモンズB1
営業時間 11:00-21:00
定休日 なし
Tel 03-3475-8017

主催：Moleskine srl
lettera27
協力：Qahwa
キュレーター：Raffaella Guidobono
会場デザイン：Zetalab



パリの[myDetour]展で応募されたノートブック

創作を愛する人、「myDetour」に集まれ!

[myDetour]展は、モレスキンの[Detour]展と同時開催される巡回展である。絵を描く、写真を撮る、イラストを描く、文章を書く――。創作を愛する人なら誰でも参加し、自由に表現することができる。また、次回の[Detour]展で世界的に活躍する作家たちと肩を並べて、自分の作品を展示する貴重な機会を得られる。

参加希望者の受付は、10月16日から11月4日の間、青山ブックセンター(本店)、ナディッフ・アパート、スパイラルレコーズ、TSUTAYA 三軒茶屋店、CIBONE 青山店にて実施。

応募されたノートは、すべてlettera27に寄贈され、永久にアーカイブに保存される。応募作品の中から、モレスキンが選んだベスト10冊は、次の都市巡回して展示を行う。東京都内の5会場では、過去の[myDetour]ベスト10冊のノートを展示。

展覧会だけではなく、[myDetour]は、モレスキンのサイトで永続的に公開され、選ばれたすべてのノートは、今回のイベントの最新情報を伝えるサイトでも紹介される。

このプロジェクトは、モレスキンが企画運営し、世界中のさまざま

な都市で開催。また、[Detour]と同様、ミラノに拠点を置き、世界の貧困地域での教育普及活動を行っている非営利団体lettera27(レッテラ・ヴェンティセッテ)の支援も行っている。

[myDetour]の特設応募ボックス設置場所には、これまでの[myDetour]で選ばれたノートブックを展示する。シボネ青山店ではニューヨーク、ナディッフ・アパートではベルリン、スパイラルレコーズではパリ、青山ブックセンター本店ではミラノとローマ、そして、TSUTAYA三軒茶屋店ではイスタンブール。各会場を巡りそれぞれの都市で選ばれたノートブックをめぐることによって、東京にいながら、世界をDetour=「迂回」することを体験できる。

[myDetour]の最新情報、参加要項、およびイベント詳細は、以下のサイトまで。

<http://www.moleskine.co.jp/detour-tokyo>

主催: lettera27とMoleskine Srl

lettera27(レッテラ・ヴェンティセツテ)

lettera27とは一ミッションと活動

lettera27は、2006年にミラノを拠点に設立された非営利団体である。国際的に、とくに貧困地域を中心に人々の読み書き能力の向上や教育普及、知的資源へのアクセス権の確保を任務としている。

非営利団体の名であるlettera27は、アルファベットの27番目の文字を示している。つまり、この世にまだ存在していない未来の文字を意味する。それはさまざまな文化が織り交ぜられたハイブリッドな文字であり、話し言葉と書き言葉が結びついた文字であり、過去と未来とが接続した文字であり、アナログとデジタルの交差を意味している。

2006年に設立して以来、イタリアのマントヴァで開催される主要な文化祭であるFestivaletteraturaでも、コンファレンスやイベントを行っている。2007年には、「ウィキアフリカ」のワークショップを5度にわたって企画した。ワークショップでは、現在もっとも広く使用されているインターネット辞書「ウィキペディア」に記録されている情報を、アフリカの言語に置き換え、アフリカ版ウィキペディアを作成する共同プロジェクトを行っている。

lettera27は、African Studies Association(アフリカ学会)、ACASA-Art Council of the African Studies Association(アフリカ学会美術協議会)、およびフランクフルト・ブックフェアが促進している読み書き能力向上キャンペーンのネットワーク(LitCam)にも参加している。

www.lettera27.org

[Detour][myDetour]とlettera27

世界巡回展[Detour]と[myDetour]は、モレスキンがレッテラ・ヴェンティセツテへの支援の一環として開催している。

参加作家は、自由に使用したモレスキンのノートとレッテラ・ヴェンティセツテに収める。このようにして収集された[Detour]の作品はアーカイブに永久保存されることになり、将来的に新たなプロジェクトを生み出すための貴重な資源となっている。アーカイブに所蔵された作品は、ウェブでも永続的に公開され、世界各地で行われる[Detour]でも展示する。

また、レッテラ・ヴェンティセツテは、[Detour]、[myDetour]のプロジェクトにモレスキンとともに共同参画しており、モレスキンはレッテラ・ヴェンティセツテに対し、毎年、資金援助を行っている。著名なアーティスト、建築家、映画監督、グラフィックデザイナー、イラストレーター、文筆家などの協力を得て描かれたノートは、レッテラ・ヴェンティセツテの重要な財産となっている。また、これらのノートのおかげで、レッテラ・ヴェンティセツテの名が世界的に認知されるようになった。なお、レッテラ・ヴェンティセツテ所蔵のノートは、[Detour]展以外の場で展示及び販売活動は行っていない。

Moleskine notebooks

モレスキンは、文化、旅行、記憶、想像力及び個性と同じ意味をもつ様々な機能を持ったノートブック、ダイアリー及び革新的なシティガイドを総括したブランドである。丸い角をもつ、黒くてシンプルな長方形、丈夫なカバー、ノートを束ねるゴムバンド、そして内側のマチ付きポケット。無名だけれども完成されたノートは、2世紀の間、ヴィンセント・ヴァン・ゴッホ、パブロ・ピカソ、アーネスト・ヘミングウェイ及びブルース・チャトウィンなど数多の芸術家や思想家に愛されてきた。一時世の中からなくなってしまうという危機を乗り越え、ミラノの小さな出版社が1997年にこの伝説的ノートブックをチャトウィンが呼んでいた愛称「モレスキン」という名で蘇らせた。このノートブックは、有名な絵画や人気小説が世に出る前の貴重なスケッチ、走り書き、ストーリーやアイデアを記録してきたのである。ウェブサイト、ブログ、オンライン・グループ及びバーチャル・アーカイブなどのネットワークを通じて、デジタルな世界とも密接なつながりを持つモレスキンは、世界中において現代の放浪的ライフスタイルのシンボルとなっている。

Moleskine Srl

1997年より、モレスキンは伝説的なノートとそのDNAを受け継ぐ新しいノートを製造、流通させる会社の社名でもある。Moleskine srlは、よく知られている定番のノートの他、様々な機能を持つノートブック、ダイアリー及び革新的なシティガイドなどをプロデュースしている。

www.moleskine.com

www.moleskine.co.jp (日本語サイト)



協力パートナー

MoMA Design Store

MoMAの名前で親しまれているThe Museum of Modern Art(ニューヨーク近代美術館)は、1929年、モダンアートに誰よりも価値を見出し、進歩的で、また、社会的にも影響力をもつ3人の女性画商、Miss Lillie P. Bliss、Mrs. Cornelius J. Sullivan、及びMrs. John D. Rockefeller, Jr. たちによって設立。当時、美術館がヨーロッパの伝統的なものしか扱わなかった時代に、アメリカらしい先見性と視点でモダンアートを収集。以来、今日に至るまで、モダンアートを世界に発信し続けています。

MoMAのミュージアムストアは1939年に机ひとつ分の小さなスペースから始まりました。現在では、美術館の中の『MoMA Design & Book Store』、その向かい側53rdストリートの『MoMA Design Store』、そして、Sohoの『MoMA Design Store, Soho』と、ニューヨークに3店舗あります。

2007年11月2日、MoMAは、三洋電機株式会社とのライセンス契約の締結により、米国外初進出店舗としてMoMA Design Storeの日本第1号店を、東京表参道の「GYRE」ビル3Fにオープンしました。総面積約130坪(約430平方メートル)の東京・表参道店では、ニューヨークのストア同様、MoMAの永久収蔵品やMoMA限定商品を含む、家具・照明、ホームアクセサリ、キッチンアイテム、ステーショナリー&デスクトップ、ジュエリー&ウォッチ、トラベルアイテム、パーソナルアクセサリ、キッズアイテム、書籍、ポスター等、デザイングッズやギフトアイテムを中心に、常時、約1,800アイテムがラインアップ。その全てが、MoMAのキュレーターの審美眼によって厳選されたものです。さらに、東京・表参道店では、ニューヨークにはない、ブライダルサロン、『MoMA WEDDING GIFT SALON』が併設され、プライベートな空間でゆっくりと引出物を選ぶことができます。店内に設置された、5台の42インチ液晶モニターは、ニューヨークの美術館のロビーで採用されているものと同じ映像システムを採用しており、MoMAの世界初進出店として、ストアの情報のみならず、MoMAの美術館の最新情報等を随時発信しています。ニューヨークのストア同様、収益が美術館としてのMoMAの運営をサポートしていく大きな社会的役割も果たしているということも、特徴のひとつです。



Raffaella Guidobono(ラファエラ・グイドボーノ)

ラファエラ・グイドボーノは、[Detour]展のキュレーターを務めている。彼女は、イタリアのISUFI (Istituto Superiore Universitario di Formazione)とドムス・アカデミーの客員教授を務め、各国大使館と協力しながら、広くアメリカやヨーロッパで展覧会を開催している。彼女は現在、イタリアとラテンアメリカを拠点に活動している。

Zetalab(ゼータラブ)

ミラノを拠点に活動しているデザイナーユニットである。[Detour]と[myDetour]の展示システム、グラフィック、および映像のデザインを手がけている。Zetalab(ゼータラブ)は企業や製品、システム作りのプロジェクトを成功に導く一種のデザインブランドであり、幅広くコミュニケーションの方法を考案する代理店でもある。スタッフの何人かは、現在、イタリアの大学もしくはデザイン専門学校で教壇に立つ。